

AAALA ニュース 131 号

内容紹介

01 宮田律「米イラク侵攻20年、中東と世界はどう変わったか」

「現代イスラム研究センター」の理事長、宮田律さんが、日本 AALA 国際部の3月学習会での講演で使われたレジюме（スピーチ原稿）です。アメリカ自分勝手な行動に追随し、まともな反省しない日本への告発と警告。

02 中国外務省「グローバル国際安全保障イニシアチブ」

中国外交部（外務省）が3月21日に発表した「グローバル安全保障イニシアチブ・コンセプトペーパー」の全文です。前文で「課題山積の時代。しかし、同時に希望に満ち溢れた時代でもある。平和、発展、相補の協力という歴史的な流れは止められない」とのべ、本文では「主権の尊重」「国連憲章の原則重視」など6つの基本的視点が提起されています。

03 三大陸研究所「新国際秩序と地域共同体の可能性」(上)

キューバを拠点にグローバル・サウスの自立と非同盟運動の再生をよびかけている研究機関の報告。ポスト米一國覇権の世界秩序と、そのなかで発展している地域共同体の動きを分析している。

04 マハティール元首相「第三次世界大戦はすでに始まっている」

マレーシアのマハティール元首相の2月24日のツイッター。ウクライナ戦争と米国による「東アジアでの無責任な挑発」に厳しい警告を発しています。

05 Truthout「バイデン、被災直後のシリアに爆弾をプレゼント」

米軍は23日、シリアへの空爆を行った。それはバイデンが議会の承認なしに命じた空爆であった。オースティン国防長官は「米国の要員を保護し、防衛するためのものであり、憲法第2条に合致している」と述べた。しかしなぜ米軍要員がそこにいるのかという法的根拠には触れなかった。

06 北海道 AALA 学習会「戦争と平和を考える」

3月に行われた学習会のレジюме資料です。レポーターは鈴木頌です。私たちのウクライナ戦争に関する考え方の変化をあとづけてみました。そして平和

国家たる日本の拠り所を、「非戦を貫くことの大切さ。どんな事があっても戦争は回避するという決意」に集約しています。